

いつでも どこでも 食の支援を



フーバー
FOOBOUR

行政・団体の皆さんへ
～FOOBOURの導入について～

目次

・公益社団法人ピースポート災害支援センターについて P3

1、FOOBOURとは P4

2、背景 P5

3、フーバーの役割 P6

4、災害のない「いつも」の時 P7

○無人だから周りを気にせず使用可能！！ P8

○24時間好きな時に必要なものを取ることができる！！ P9

○導入・運営事例（輪島市） P10

○食料品・日用品の調達方法 P11

5、災害が起きた「もしも」の時 P12

○炊き出し P13

○炊き出し以外の活用事例（能登半島地震） P14

6、導入に向けて P15

○導入までのプロセス P16

○設置に必要な条件 P17

○運用方法の紹介 P18

○活用いただけるシステム P19

○導入にかかる費用 P20

・今後のフーバーの目標 P21

・お問合せ先 P22

公益社団法人ピースボート災害支援センター (PBV)



描く未来

VISION

人こそが
人を支援できる
ということ

ピースボート災害支援センター(PBV)は、被災地での災害支援活動や災害に強い社会づくりに取り組む公益法人です。

誰しもが、自然災害に遭遇する可能性があります。国や地域を越えて、すべての人々がお互いに助け合える社会を創ることが、困難に立ち向かう力になると信じています。

私たちの使命

MISSION

「お互いさま」を
共に歩む

いつ、どこで起るか分からない災害は、時に私たちを被災者にし、時に私たちを支援者にもします。自分を守り、大切な人も守る。そして、少し遠くの「あの人」を支えます。PBVは、被災者や被災地域の回復のために、その文化や営みに寄り添い、支援者として自発的に関わる多様な人々の想いを具体的に“役に立つカタチ”にします。

被災地の課題解決

SOLUTION

ボランティア、スタッフの延べ活動人数
117,788人

被災地での食事支援(炊き出し)
162,691食

避難所の運営支援
141か所

仮設住宅への物資や見守り事業
39,668世帯

災害ボランティア・トレーニング修了者
10,033人

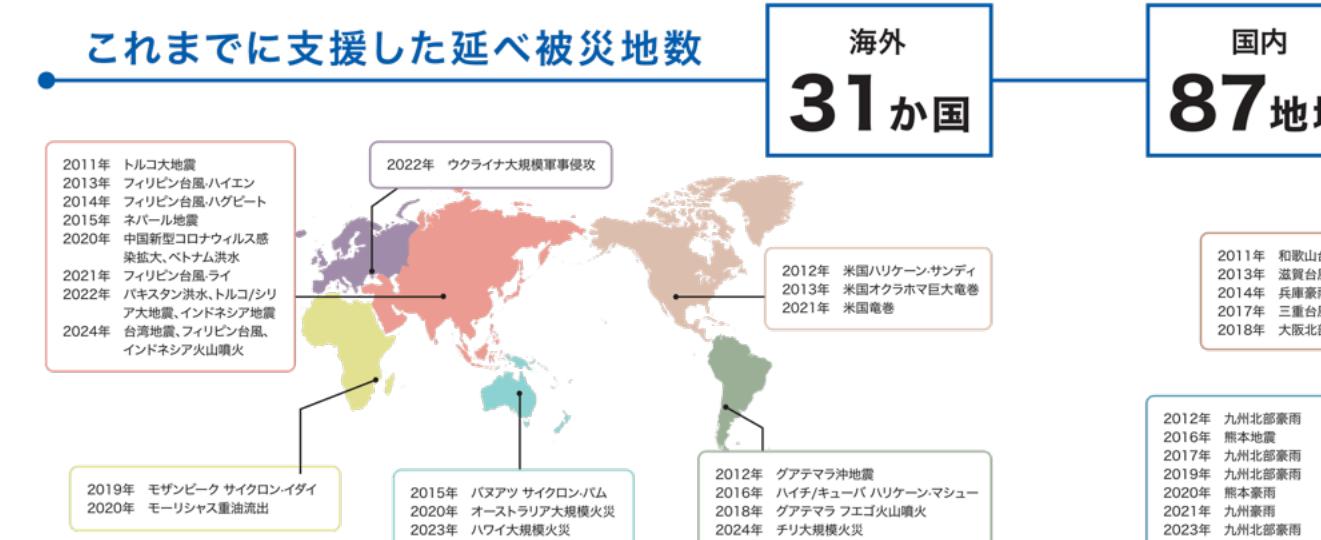
家屋清掃、壁・床・屋根の応急対応
4,620件

災害ボランティアセンターの運営支援
39か所

公民館・集会所のコミュニティ支援
265か所

※実績は2011年3月～2024年3月までの累計

これまでに支援した延べ被災地数



1、FOOBOURとは

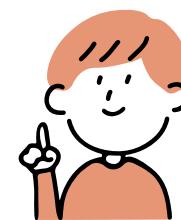
「フェーズフリー」に食の支援を実現するキッチンカー



災害のない「いつも」の時も

災害が起きた「もしも」の時も

地域の「食」を守ります！！



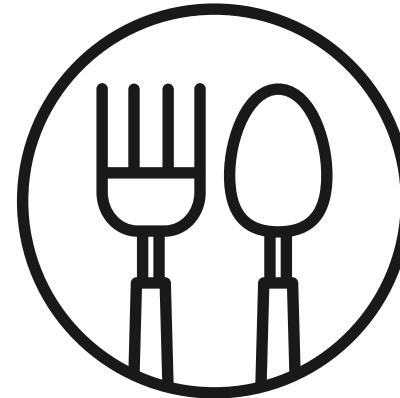
「いつも」の備えが、「もしも」の時に地域を支える力に！
（下線）

2、背景



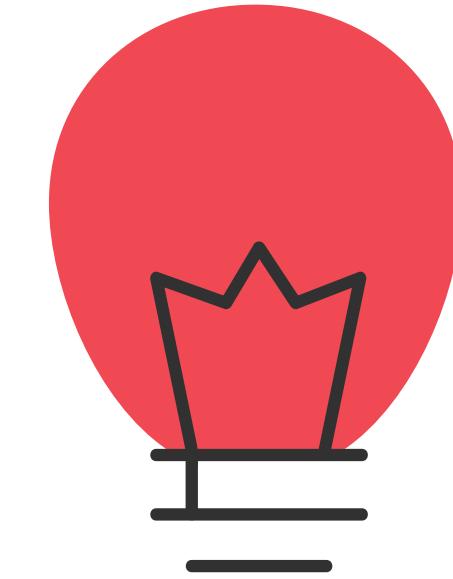
気候変動による 風水害の多発

温暖化による気温上昇や気象変化により、局地的な豪雨や風が増加し、洪水や竜巻、台風などの風水害が頻発するようになりました。その数は50年前の5倍にも上ります。



子どもの貧困 フードロス

家庭の所得が低く、適切な食事を摂取できない状態にある子どもがいます。また国内のフードロスは、年間約460万トンに上り、無駄な廃棄が社会問題化しています。



繰り返される 災害時の食の課題

災害時には、食料調達が困難になり、食糧不足や栄養失調が起こることがあります。また避難所で提供される食事は菓子パンやおにぎりなど冷たい食事が続きます。

3、フーバーの役割

災害のない「いつも」の時



ひとり親家庭支援

- ・対象：ひとり親家庭
- ・提供できる物資の種類：週10～15種類
- ・利用可能時間：24時間
- ・1日あたりの受取り想定人数：50人
- ・実施期間：災害対応時以外
- ・設置場所：市役所、福祉施設、商業施設などに常設

災害が起きた「もしも」の時



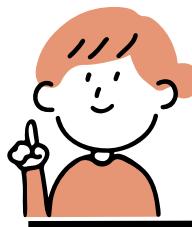
緊急支援（炊き出し）

- ・対象：被災地域の方
- ・食材：最大2000食/日の提供が可能
- ・設備：調理・配膳・清掃に必要な設備部品を積載
(調理器具、容器、配膳用品、ゴミ箱など)
- ・実施期間：発災後～半月程度（規模による）
- ・輸送：食材や設備を運搬する車両を用意する
- ・配布場所：炊き出しが必要な避難所、公民館など

4. 災害のない「いつも」の時



- 無人だから周りを気にせず使用可能！
- 24時間好きな時に必要なものを取ることができる！
- 地域での取り組み
- 食品調達方法



無人だから周りを気にせず使用可能！



☆キッチンカーの荷室を活用



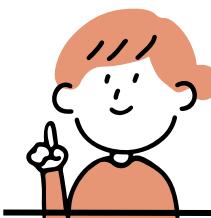
①電子ロックの導入

- ・登録者が自由に入出力可能



②食料品・日用品を準備

- ・冷蔵庫、冷凍庫も完備
- ・エアコンは、遠隔操作および自動化により適切な温度管理が可能



24時間好きな時に必要なものを取ることができる！



実際の様子に関しては
上記QRコードよりご覧ください
(動画: 1分48秒)



①セルフレジシステム導入
・バーコードのスキャンで
入出庫の管理が可能

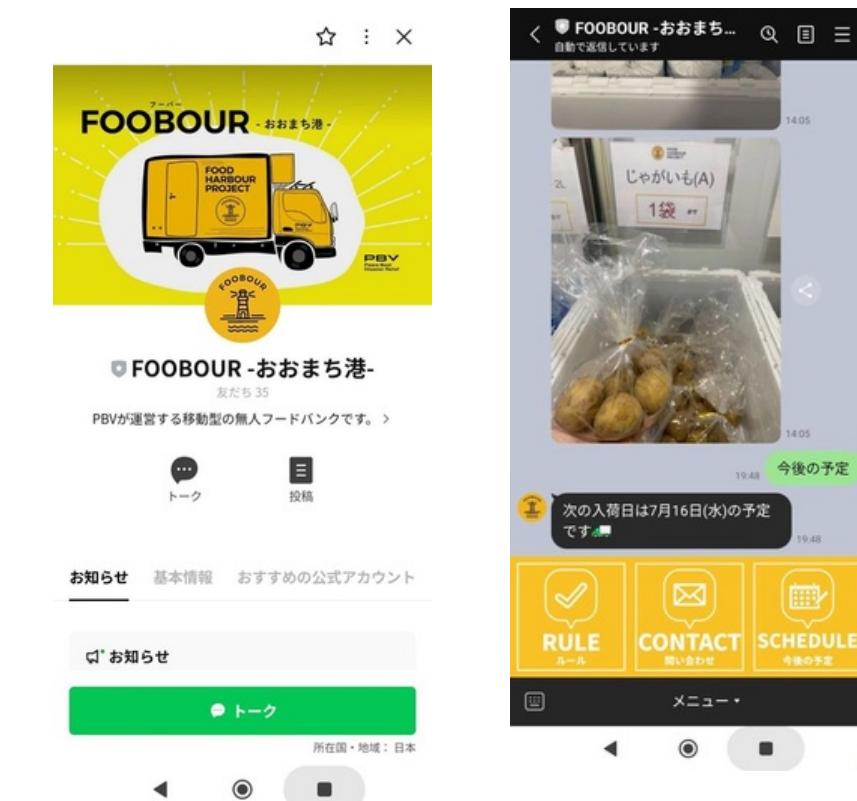


②防犯カメラ完備

- ・利用状況の確認・録画
- ・カメラを介した
遠隔でのお声掛けも可能



③コミュニティボードの設置
・利用者の意見や要望
・寄付者へのメッセージ
・運営側と利用者の
コミュニケーション
などに活用



④公式LINE開設

- ・NEWアイテム情報
- ・車両移動
- ・その他お知らせ

主なコミュニケーションツール
として活用

導入・運営事例（輪島市）

○設置場所：輪島市 ふれあい健康センター

【設置場所の選定理由】

- ・子育てに関する相談やイベント、検診等を行っており
対象者の方が気軽に立ち寄りやすい環境

○対象：ひとり親家庭

- ・「児童扶養手当証書」を受給されている方
- ・被災状況を鑑み、期間を区切ったうえで
上記受給世帯以外のひとり親世帯も対象としています

○連携：輪島市 子育て健康課

- ・対象者へのお知らせの送付
- ・設置場所やイベント等の相談

○利用頻度

- ・週に1回まで
- ・24時間いつでも利用可能

○その他

- ・登録・利用にあたっての不安軽減を目的とした
「登録サポート会」を実施



フーバー利用上のルール



● 個数：各品物または各コンテナに記載のある個数の上限を確認してください。なるべく多くの方に必要な物品を受け取っていただくため、基本的には持ち帰りの個数を制限しています。なくなり次第、終了です。

● 頻度：週1回まで利用可能です。

● 利用対象者：事前登録を済ませ、電子ロックの合鍵を付与された世帯のみ。カギを他の方に渡すことはできません。

● 利用者制限：トラック内が狭いので、利用は一世帯ずつお願いします。

● 物品の扱い：オークションサイトやフリマサイトなどを含め、提供品の他人への転売や譲渡は固く禁止します。また、フーバー内や提供品の写真・動画をSNS等へ公開することはお控えください。

ルールは守ろう！

FOOD HARBOUR PROJECT

残念ながらルールやマナーが守られない場合には、監視カメラや電子ロックの記録をもとに、注意や利用停止措置を取ることがあります。他の利用者への配慮を忘れず、フーバーをご利用いただけますと幸いです。

PBV ピースボート 災害支援センター

食料品・日用品の調達方法

【例1】

フードドライブを実施。地域内のフードロス削減にも貢献しています。
また、別途食材保管用の倉庫を確保、適切に保管しています。
(佐賀：食支援団体の共有倉庫を使用)



【例2】
Yahooの実施する買って応援便、ネット募金にも参画。
寄贈物資の調達や資金の確保に活用させていただいているます。

5、災害が起きた「もしも」の時



- 炊き出し
- 炊き出し以外の活用事例（能登半島地震）

炊き出し



【炊き出しの想定】

- ・最大提供数：2000食/日
- ・実施期間：発災後～半月程度（規模による）



【提供する上での配慮点】

- ・アレルギーに配慮
- ・乳幼児や高齢者の方に向けたおかゆの提供
- ・栄養に配慮した温かい食事を提供



【フーバーだからできること】

- ・動く拠点として、支援が必要な場所に食事や物資を届ける
- ・少ない食数にも対応可能
- ・長期保存が可能なレトルト食品や冷凍食品を活用し、屋外での湯せん調理による衛生的な食事提供

炊き出し以外の活用事例（能登半島地震）

1、「一步踏み出す情報を地域の方へ」

40代：「年配の方は支援があたるのに働き世代は…」

50代：「再建に向けて誰に聞けばいいかわからない」

70代：「携帯を使えないから情報が分からぬ」など

被災地では、必要な情報を得ることは簡単ではありません。

住民さんの声

解決方法の1つとして、石川県珠洲市ではフーバーも活用しながら道の駅や公共施設など5か所で、行政や民間支援の情報提供、相談受付、住まいの相談、慰問行事などを実施。物資配布と合わせて行うことで、より多くの方に情報を届けることができました。情報発信の方法として、デジタルサイネージなども活用しました。



2、「住民同士がつながる場所を」

災害により、地域のコミュニティが途切れてしまうことがあります。

フーバーで食事提供を行う際、飲食スペースを設置し、近隣住民の方が集える場を提供。

住民同士の再会や、コミュニティの再構築につながりました。

珠洲市：サロンなど計64回実施。（フーバーも適宜活用）
のべ12,167名が参加しました。

3、「地域のニーズに合わせた活用方法」

珠洲市大谷地区では、地域にあった唯一の商店が地震で倒壊。地域自体も一時孤立しました。そこで、大谷地区にフーバーを設置。登録世帯の方が地域の中で物資を受け取れる組みをつくりました。

6、導入に向けて



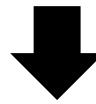
- 導入までのプロセス
- 設置に必要な条件
- 運用方法の紹介
- 活用いただけるシステム
- 導入にかかる費用（概算）

導入までのプロセス

1、導入申請書のご提出

応募期間：2025年11月20日～12月26日

HPに掲載しております企画提案書を予め
ご確認ください。



「FOOBOUR導入申請書」をご記入の上、
メールにて事務局までご提出をお願い
いたします。

ご不明点などありましたら、お気軽に
FOOBOUR事務局までお問合せください。

配備地域の決定につきましては、
2026年1月を予定しております。

※2025年度限定特別支援をご希望の場合には、
すべての申請が承認されるわけではございません。
恐れ入りますが、予めご了承ください

2、導入に向けての準備

目安時期：2026年2月～3月

【打ち合わせ】

運用開始に向け、具体的な内容のご相談

- ・運用開始日
- ・対象者への周知方法
- ・設置場所の決定
- ・地域の皆さまへの周知
- ・オープンイベント
- ・電気代

など

【運用開始に向けての準備】

- ・車両
- ・物資調達・登録
- ・システムについてのレクチャー
- ・利用対象者への周知

など

3、運用開始

目安時期：2026年4月～8月末

運用開始に向け、
利用登録サポート会の実施

【日常運営】

- ・在庫、利用者管理
- ・物資調達

など

設置に必要な条件

①駐車スペース

- ・フーバー設置スペース（駐車場 幅：約5~6m）
→フーバー入口に階段を設置するため
- ・利用者用 駐車スペース（1台分）
- ・24時間出入りが可能
- ・設置場所の勾配が水平に近い

②外部電源（必要容量）

- ・最大11A、1100W程度

③適度な人の目

- ・防犯上 安全が確保できる

※人の目に付きすぎる場所は利用しづらいため避ける



④災害リスクが少ない場所

- ・ハザードマップ上で浸水エリアか、等

⑤倉庫

- ・フーバーに置くまでの食料品の保管場所（温度管理がある程度可能な倉庫）

⑥その他

- ・屋根・ひさしがある場所だとなお良い【理由】
利用時、雨に濡れにくい
車両が高温になりにくい

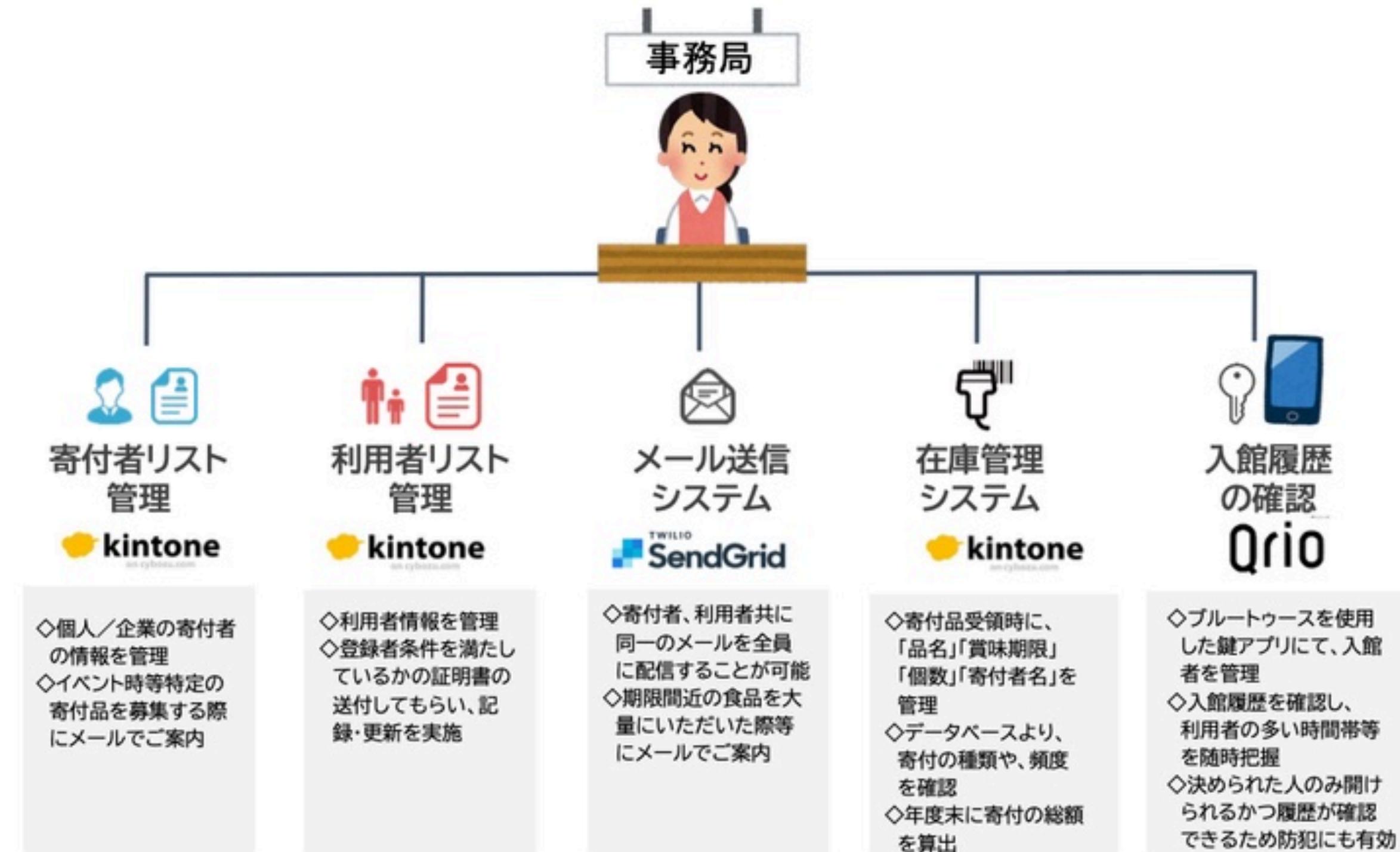
運用方法の紹介

	PBV運用型	伴走型（自治体・団体が運用）	備考
車両	PBV	受入れ自治体（団体）	
人員	PBV	受入れ自治体（団体）	
運営	PBV	受入れ自治体（団体）	伴走型：導入に向けての準備～運営までのサポートをPBVが行ってまいります
寄贈品の確保	PBV	受入れ自治体（団体）	伴走型：PBVも寄贈品を集めためのお手伝いを致します
倉庫の確保	受入れ自治体（団体） /PBV	受入れ自治体（団体）	
周知	受入れ自治体（団体） /PBV	受入れ自治体（団体） /PBV	自走型：周知方法は、受入れ自治体（団体）に相談 伴走型：チラシ文はPBV準備
公式LINE	PBV	受入れ自治体（団体）	

※伴走型の場合でも今までのノウハウを活かし、フーバーが地域の皆さまの笑顔と安心につながるようサポートさせていただきます。

活用いただけるシステム

①主なシステムの種類と役割



導入にかかる費用（概算）

○初期費用

- ・車両・改造費：約700万円
(車両本体・調理設備一式)

○災害支援備蓄品：約100万円

(水、アルファ米、レトルト食品など1000人分)

○初期導入手続き費用：約50万円

(登録・設計支援、研修、マニュアル提供等)

○運用費：約300～350万円/年

(駐車場、人件費、通信費、倉庫費用)

○フーバーサポーター費：約50万円/年

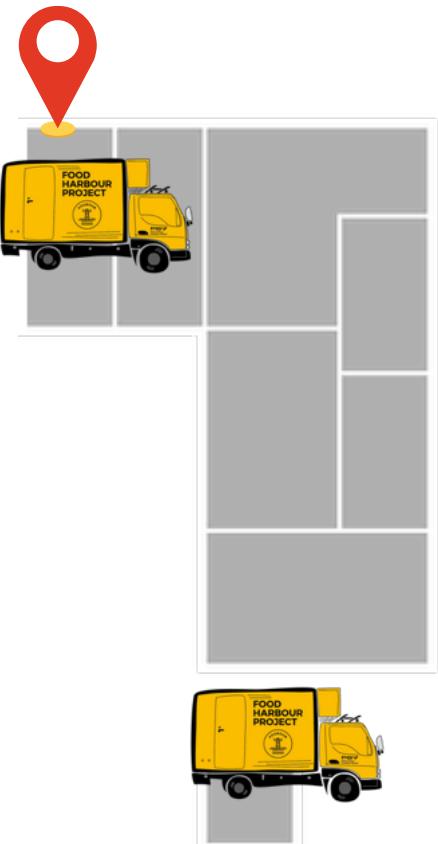
(運営サポート費、システム利用料)



2027年までに

目標は全国 10台 の配備

佐賀県大町町



石川県輪島市



「食べることは生きること」
フーバーが、あなたの町に「食」から笑顔を！

ご検討のほどよろしくお願ひいたします。
不明点は下記連絡先までお問合せください。



【連絡先】

FOOBOURプロジェクト事務局
HP : <https://foobour.pbv.or.jp>
TEL : 050-1732-4029
mail : foobour@pbv.or.jp
担当 : 安田、寺地